

# LUX IN KOBE

CAMERATA KOBE IN CONCERT

ANTWERP | KOBE

ANTWERPSE KATHEDRAALKOOR

SATURDAY 18 JUNE 2005 AT 20:00 IN THE CATHEDRAL OF ANTWERP | CAMERATA KOBE VOCAL  
ENSEMBLE DIR. IRE COLOM | CAPELLA VAN HET ANTWERPSE KATHEDRAALKOOR DIR. SEBASTIAAN VAN STEENBERGE  
ARS LONGA STRIJKWINTET MET MEDWERKING VAN JULEK VAN BEUNEN | ORGEL DIR. VAN DE VEE



TICKETS  
FORWARD SALES /  
ENTRANCE €2

CONTACT  
LINDA HERMAN  
TEL: 031 3 231 01 34  
LINDA.HERMAN@INGELIS.NL  
ALSO AVAILABLE AT THE  
CATHEDRAL SHOP

ANTWERP

2005

KOBE

**Pioneer**  
sound.vision.soul

＜阪神淡路大震災10周年に、神戸の合唱団がアントワープ大聖堂にてコンサートを開催＞

1995年1月の阪神淡路大震災から今年で10年。

震災当時、被災地に鎮魂と復興の願いを込めてアントワープ市民から贈られたアントワープ大聖堂の聖母子像のレプリカが、復興に向けての希望のシンボルとなり、今も地域住民の心を支えています。

震災後10年の節目に、この支援に感謝の意を込めて、神戸を活動の拠点とする女声アンサンブル「カメラータ神戸」が、アントワープ大聖堂にてコンサートを行います。カメラータ神戸を指揮するのは、神戸市在住で自身も自宅が全壊するなど震災で大きな被害を受けたベルギー人作曲家のエリック・コロン氏。音楽を通じて、神戸から世界に「光」を発信させるべく、ミサ曲「Lux in Kobe」（Luxはラテン語で光）を作曲しました。

当日は、この代表曲を中心に、壮麗なアントワープ大聖堂にカメラータ神戸と大聖堂聖歌隊の歌声が響きます。皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

なお、当コンサートは神戸市、兵庫県の阪神淡路大震災10周年記念事業に指定されています。

\*\*\*\*\*

日程： 6月18日（土） 20:00pm

会場： アントワープ大聖堂（O.L.V. Kathedraal）

入場料： 12 Euro（前売り10Euro）

お問い合わせ：（日本語） 小田村 尚（おだむら たかし）  
[jack\\_odamura@pee.pioneer.be](mailto:jack_odamura@pee.pioneer.be)  
TEL:03.570.05.57  
FAX:03.570.08.76

（英語・オランダ語・仏語） Linda HEIRMAN  
[linda.heirman@engels.be](mailto:linda.heirman@engels.be)  
TEL:03.231.88.84  
FAX:03.231.01.74

（日本国内でのお問い合わせ） ルックス・イン神戸実行委員会事務局  
[camerata@kcc.zaq.ne.jp](mailto:camerata@kcc.zaq.ne.jp)  
TEL:078-412-0551  
FAX:078-412-0551

\*\*\*\*\*

演奏者プロフィール

エリック・コロン

ベルギー生まれ。演奏家、作曲家、教育家、パイロット。ヨーロッパ主要都市で活躍後、米国ウェスレーン大学、コネカット大学等で教鞭をとりながら楽譜出版やレコーディング、演奏活動を行う。ベネズエラ国立音楽学校長を勤めた後、来日。フランドルの洗練された作曲技法と、欧州・南北米の文化を熟知した作品、優れた感性が世界各地で高い評価を受けています。オペラ、交響楽曲その他多くの作品の中でも、交響詩「福岡三章」（とびうめ国体委嘱）、パイプオルガンの為の組曲「八橋検校」、交響詩「京都」（京都市委嘱）、行進曲「The Asahi」（朝日新聞社委嘱）等の作品に日本の美が織り込まれています。

カメラータ神戸

1995年阪神淡路大震災直後に、エリック・コロン氏夫人の声楽家 鼓呂雲由子氏を代表に結成。共に歌うことを通じて、悲しみを乗り越え、希望を抱きながら、市民と共に音楽を通じた社会活動を続けてきました。メンバーは声楽家をはじめ学生から社会人まで幅広い世代で構成され、自由で創造的な芸術活動を目指しながら、身近に起こった生死のドラマから得たメッセージと希望を音楽のうちに託しています。

2002年4月には、東大寺大仏開眼1250年を記念し大仏殿でアヴェ・マリアの奉賛演奏を行い、また、奈良能楽堂で初めての西洋音楽演奏の場となった「春の祈り」は各新聞やテレビでも紹介されました。

カメラータ神戸オリジナル曲に加えて、グレゴリオ聖歌、中世、ルネッサンス曲もレパートリーとしています。「人はなぜ歌うのか？」というテーマをもとにグレゴリオ聖歌以前の音楽の歴史を紐解くレクチャーコンサートを行う傍ら、日本の詩情を味わいながら、懐かしい歌を歌う「ゆりかごの会」なども主催しています。また、日本で使用されていない楽器を、必要としている世界の子供達へ送る活動「音楽の捧げもの」も行っています。

2005年は愛知万博など日本全国各地でルックス・イン神戸コンサートが行われ、6月のアントワープ公演の後には、パリに在る日本大使館でもコンサートが開催されます。